

注) この RCT は日本東洋医学会 EBM 委員会がその質を保証したものではありません

1. 感染症 (ウイルス性肝炎を含む)

文献

谷口彰治, 寺井岳三, 幸野健, ほか. 带状疱疹後神経痛に対する補中益気湯の効果. *皮膚の臨床* 1999; 41: 601-3.

谷口彰治, 幸野健, 寺井岳三. 带状疱疹後神経痛に対する補中益気湯の予防効果. *Progress in Medicine* 2002; 22: 863-5. 医中誌 Web ID: 2002176936 [MOL](#), [MOL-Lib](#)

1. 目的

带状疱疹後神経痛 (PHN) に対する補中益気湯の予防効果の有無を評価。

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

病院 1 施設 (皮膚科)

4. 参加者

急性期の带状疱疹患者 57 名

5. 介入

Arm 1: カネボウ補中益気湯エキス細粒 7.5g を 1 日 3 回に分けて、12 週間経口投与 (42 名: 男性 12 名、女性 30 名、平均年齢 69.2 歳)

Arm 2: 投薬なし (15 名: 男性 5 名、女性 10 名、平均年齢 66.9 歳)

6. 主なアウトカム評価項目

観察開始時、投与 12 週後、24 週後の痛みの状態を visual analogue scale (VAS) で評価した。得られたデータは中央値 (25%点、75%点) で表された。

7. 主な結果

観察開始時の VAS は補中益気湯群で 7.1 (6.5, 7.4)、コントロール群で 6.9 (5.5, 7.9) であったが、12 週後にはそれぞれ 4.1 (3.0, 5.4)、3.5 (1.7, 5.1)、24 週後では 1.4 (0.5, 2.3)、2.9 (1.7, 4.2) であった。観察前と 24 週後で比較した VAS 比率 (rVAS) において補中益気湯群が 0.20 (0.09, 0.30)、コントロール群が 0.42 (0.33, 0.53) で有意差を認めた。

8. 結論

带状疱疹の急性期に補中益気湯を 12 週間内服することにより、24 週後の PHN を有意に抑制する。補中益気湯は PHN に対し予防効果を有する。

9. 漢方的考察

なし

10. 論文中の安全性評価

補中益気湯投与群 42 名中 1 名に胃部不快感が認められたが、一過性で継続投与可能であった。

11. Abstractor のコメント

PHN で長年悩まされている患者は多く、本試験は貴重な報告と言える。両群の年齢、罹患部位、発症日数、基礎疾患、併用薬に偏りはないと記載されているが、症例数に相違を認める。PHN の発症率とも関連する問題であるが、結果への影響など評価が必要である。臨床的には意義ある結果であり、さらなる研究の成果を期待する。

12. Abstractor and date

鶴岡浩樹 2007.6.15, 2008.4.1, 2010.6.1, 2011.10.12, 2013.12.31